

Do CL Column

小さなビックバン —CL を実践し続ける—

香菜恵



2021/10/02

彼女が苦手だった。もっと言えば彼女が好きじゃなかった。

彼女とは、近所のスーパーのレジ打ちの、ショートカットのスラリ背の高い中年の女性だ。

いつも私は夕方にそのスーパーに買い物に行く。そしてお会計のレジに並ぶ。

何人かレジ打ちの人は居るのだが、たまにその女性のレジが空いていて並ぶと、その女性は、子供の頃苦手だった友達のお母さんに、どこか似て居た。

その女性と一度も話したことはないのに、何だか毎回私の勝手な彼女への嫌なイメージが上乘せされていく。その女性の担当するレジは、出来る限り避けた。運悪くそこだけ空いて居ると、あー嫌だな。空いて居るのに他に並んだりしたらさすがにおかしいし、でも、なんか嫌な気分なんだよなー。と、行動は仕方なくレジに並びながら、心は感じるままに感じて居た。

ついこの間、夜に旦那とそのスーパーに行った。

旦那が、クーポンが貯まったから 500 円券があるんだって♪と言った。レジに行くとその女性のレジに旦那は並んだ。少し私の中で勝手な緊張感が流れた。

500 円券使えますか〜。と渡すと、はい使えます、と彼女。レジをピピッと打ち終わると、彼女はアッ！と言って、凄く気まずそうに、ごめんなさい 500 円券、お会計に入れ忘れちゃいました…と困った悲しい顔をした。

旦那が笑いながら、良いですよ〜また今度使うから♪と言うと、私も彼女に笑いかけて、全然、大丈夫ですよ♪と言った。なんだか無理矢理では無くて、500 円券を入れ忘れたその動きが私達には面白かった。彼女も何だかつられて、はにかんだ。その顔は、とても人間らしくて可愛かった。

その次から、彼女のレジが苦手でもなんでも無くなった。それはいつものスーパーで、普段通りの夜に起きたことだ。私の心に事実が働きかけたことで起こった、小さな小さなビックバンだ。キャッチ出来たその夜は、まさしく幸運だった。

私が感じたリズム

10/09

秋になり、通勤帰りに家の近くで自転車を漕いでいたら、鳥の大群が、前方の神社の木に群がって来て居た。テレビがよく、迷惑！鳥の大騒音！などの特集を放映して居るので、少し私は眉をひそめた。かなりワーワーと大合唱して鳴いて居る。でも、神社の木の下で自転車を停めて、少しその鳴き声の中に身を委ねて、騒がしい音を聴いてみた。すると驚いた。想像とは裏腹に、鳥の大群の鳴き声は苦しくも煩くも無かった、気持ち良かった。ずっとだと流石に困るだろうけれど、数分間その中に居るのは、本当にリズムカルで心地良い音だった。自然の音だからではないかなと思う。

テレビで、まことしやかに放送されている内容も常識も、当てはまらないことは自分には多いと改めて思った。実際に見て、聞いて、観察して、感じた事が本当に自分の感じた事なのだと確認出来た。鳥達は、ただただ鳴いていたのだけれど、それについての私にとっての意味を付けるのは、テレビでも世間でもない、わたしなのだ。

今年の秋はいつにも増して私らしく、心地良く風を切って毎日自転車を進めている。(千葉県千葉市)